



7 研修第4号

(令和7年7月)

発行:宇治市乳幼児教育・保育支援センター

アドレス:nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp



乳幼児教育・保育推進事業 通信 ～令和7年度 乳幼児教育・保育協働研修～



令和7年6月23日(月) 第3回研修会(保幼小連携)を開催しました。

48名の先生方と一緒に学び合いました。

(保育所(園)9名・幼稚園2名・認定こども園8名・小学校19 中学校10名)

1. 講演

「宇治市のめざす教育・保育」 教育総合推進センター 武田 センター長

「乳幼児教育・保育支援センターについて」

乳幼児教育・保育支援センター 雲丹亀 センター長





「宇治市のめざす教育・保育」の話の中で
心に残ったことを一つ記載してください。

・「主体的に学びに向かう子どもたち」

インプット型の教育からアウトプット型の教育へ。私たち自身もアップデートが必要

・「主体性」という言葉は自園でもよくテーマに上がっていますが卒園した後も大切にされていることを改めて感じました。

・「主体性」の育ちに向けて職員も意識を変えることが必要。職員は地域の他保育園・小学校、中学校とつながることによる子ども目線でのメリットを理解する。

・主体的に学びに向かう子どもたちの力を育てるために子どもの乳幼児期からの育ちを大切に成長していく過程での連携が大きな役割を持つということ。連携により各園・校が個々の子どもの育ちを共有し成長を支えてあげることができるということが大切であると感じました。

・小学校・中学校の子どもたちの様子など知ることができて良かった。特に読書の大切さを感じた。

・宇治市の子どもたちの現状データより、宇治市においても子どもたちの自己肯定感の低さを拝見し、非認知能力向上の重要性を感じました。その土台となるのが乳幼児期である研究もあることから、生活・あそびを通した体験の質のより向上が大切だと思いました。

・読書・ゲームと学力の相関と主体性の必要性

・「中1ジャンプ」という言葉が心に残りました。「変化を積極的に捉え、自らチャレンジできる力」というのは幼児から小学校へつなぐ時にも大切な考えであるように思います。

・一斉型教育から多様性教育への話が良かったです。



「乳幼児教育・保育支援センター」の話の中で
心に残ったことを一つ記載してください。

・基本理念の中にある「ともに育ち」

その中にある保護者に寄り添い共感しながら支援を進めることの大切さを込められていたこと。

・センターの基本理念「ともに生きて～」は子どもたち 1 人ひとりの育ちに寄り添った内容で感銘を受けました。連携では顔の見える関係づくりが小学校への接続で子どもたちの安心にもつながるということを改めて感じました。

・公開保育や授業参観など今まで交流がなかった部分の取組が活発に行われるようになっていくことは大変良い取組であると感じています。

「ともに生きて ともに育ち ともにつながる」という理念のもと、同じ方向を向いて歩めたらと思いました。

・センター設立にあたり理念を明確化された内容について

現代だからこそそのマルチスピーシーズな視点も盛り込まれており、より良いと感じました。動画の紹介も良かったです。動画では「数」ではなく、一人一人が向かう姿勢の大切さがうかがえました。その点からすると、今の小学校の通知表の評価方法に対しての疑問が浮かびました。

・「ともに生きて ともに育ち ともにつながる」は、とてもよい理念であると思いました。DVDはぜひ貸していただきたいと思います。

・センターの取組が進んでいくことがよくわかり、DVDの内容が心に残りました。

・就学前の施設が色々な研修や取組を共有していく。センターが中心になり他園のことを知ったり質の向上へとつながっていくことに期待の持てる内容でした。

2. 実践報告



宇治市立岡屋小学校

杉本 俊恵校長



実践報告のお話の中で活かしたいことを一つ
記載してください。

・地域の幼稚園同士の交流

自分たちのブロックでも地域の子どもの共有、保育の質を向上させる研修の場としても実践していきたいと思いました。

・1年生のプールの取組、参考になりました。

・幼小で架け橋期のカリキュラムを一緒に作成することにより子どもの育ちを共有しやすく、接続に大切なことが視覚的にわかるので職員間でも共有しやすいと思いました。

・幼児期にこんな力がついていたらとか、こんな経験をしていたらこんな学びにつながるという、小学校や中学校の子どもたちの実際を聞けたらと思います。

・幼稚園の先生方の意見を取り入れたスタートカリキュラムの編成

・架け橋期のカリキュラムの作り方のヒントをいただきました。

・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム、架け橋期のカリキュラムの作成及び職員との共通認識

・子どもの交流をしていくこと

給食交流や参観日訪問など無理のないところから始める。お互いの環境を知ることで理解を深める。

・考える子を育てる第1歩に「どうして」「なぜ」の問いかけが大切



保護者にも今共有し実践しようとするテーマや内容を可能な限り知ってもらい子育てに生かしてもらいたいと思いました。

自分たちの役割は「人育て」「人づくり」において接続の重要性を再確認できた。とりあえず、顔見知りを作っていくことから始めたい。

昨年ブロックで話し合えたことを1つずつ取り組んでいきたい。また、園児同士の交流はぜひ持っていきたいと考えています。

今回のように職員の交流があることが接続につながるのではないかと感じました。

子どもたちの育ちは連続しているの、小学校・中学校でまたゼロからのスタートになるのではなく、一緒に子どもたちを見守って理解していけるよう就学前の相談はもちろんですが顔や場を知って子どもや保護者の安心につなげていけるような連携を取っていきたいです。

スタートカリキュラムでは職員の意識変化の部分でもう少し時間がかかると思いますが、地域性を活かした保小中の交流が関わる中でまず互いの違いを共有、そしてリスペクトしその後につながればと思いました。

地域性があるので保護者も巻き込んだ教育・保育を進めていく。

実際に交流を始めていきたいと思います。(計画していることがあるので実践していきたいと思います。)

とりあえず動いて交流を持ちたいと思う。

意見交流を通して今後、幼小中接続において取り組みたいこと



就学前施設より

一緒に職員の交流会などしたいです。

幼・小・中が内容を変えるということではなく、まず互いに共有することであると思います。

非認知能力を乳幼児期から育み、それを小・中とつなげていく必要性を感じました。

実際の交流を数多くすることによって互いを知り、その中で互いのよいところを取り入れ、切れ目ない接続ができるようにしたい。

少しずつでも交流事業を行っていききたい。(学校探検から始めましょう)

・移行期プログラムをどう作っていけばいいのか

幼→小→中、互いの参観。合同研修会の実施

資質能力の3つの柱の育ちを事例を基に語り合う。

意義を踏まえ、相手の立場を理解した上で他者に責任転嫁することなく自らの立場から向上していくことが大切。今あること(実際実施していることなど)を活用し交流の機会をつくるとよいと思います。

大人(職員の意識)によって取組も内容(資質)が変わってくるので最後の交流グループ会議ではとてもよく視点の話ができて良かったです

保幼小連携・接続の重要性をあらためて理解しました。架け橋ブロックが中心となり、小中連携のように推進していく必要性を感じました。
(中学校)

先日、センターで南部小学校の取組を教務主任の先生から聞かせてもらいました。今回は管理職目線でのお話を聞かせてもらい、南部小学校の取組について大変よくわかりました。自校でできそうなことが多々あるので少しずつ実践できるようにしたいです。(小学校)

講演や実践報告は勿論参考になる点は多くありましたが、ブロック毎の交流ができたことが、有意義であった。
(小学校)

教育と福祉が共催してこのような研修を開催できたことが意義深い。こんなうれしいことはない。ありがとうございました。
(中学校)

感想・意見について

小・中学校より



初めて幼児教育施設の先生方と交流でき、教育活動に対する考え方を聞いたのが良かった。
(中学校)

保幼小連携で大切にしている視点について学ぶことができた。また架け橋ブロックで交流ができたことは、これからの連携につながる。特に管理職同士が話をすることで実際に分掌や教員が進める連携内容についての理解につながると思う。
(小学校)

新記録と涙のDVDを見て、悔し涙を流している園児を見た他の園児にかけられた先生の言葉に、考えさせられました。中学校では、泣いてしまった生徒を別室に連れて行き、何でもない大丈夫と、他の生徒に考えさせる機会を無くしているのではないかと、思い考えていく必要があると思いました。(中学校)

子どもの育ちと学びの連続性について深く考えるきっかけになった。
(小学校)

同じ日時に研修会に参加し、同じ話を聞いて共有できたことが大きな成果だと感じた。何事も進めていくためには、互いを知ることから始まると考えている。連携の必要を深く感じる時間だった。
(小学校)

小中学校からの視点(センター長、杉本校長の発表)、保育からの視点(雲丹亀センター長の発表)から学べたことは意義があった。
(小学校)